

後記

本年度事務局として最後の号の編集を終えた。六回出したことになる。今号は、東北大学文学部の社会学研究室の方々に御苦勞願った。とくに鹿子木月子会員にはテープのおこしをやっていただいた。毎号どなたかに御迷惑をかけたこと、御わびとともに感謝申上げる。

さて、農民の“生活破壊”ということで、今年の山形では忘れられない二つのいたましい事故があった。一つは、二月二〇日未明、栃木県芳賀郡茂木町大瀬の大瀬橋架設工事現場で、寒河江・西村山地区から出稼ぎに行っていた六人が酸欠事故で死亡した。もう一つは西村山郡朝日町古楨の国営最上川中流農業水利事業西部幹線トンネル工事現場で、五月一〇日朝、ガス爆発事故が起き、九人が死んでいる。これには西村山・西置賜・庄内等の県内出身者七人のほか、岩手・富山からの出稼ぎ者が二人いた。前者の工事担当者は大林組の下請細谷建設、後者は大林組の直接請負である。保安対策の手ぬかりなど、同一資本系列ゆえに必然性を感じる事故である。(Y)